

## CNS ニュースレター

～千葉の地から、千葉のチカラ～

発行元:NPO 法人千葉自然学校

〒260-0015 千葉県千葉市中央区富士見 2-3-1 塚本大千葉ビル 7 階

電話:043-227-7103 FAX:043-202-7237

HP:<http://www.chiba-ns.net> メール:[info@chiba-ns.net](mailto:info@chiba-ns.net)

## 「世界とつながる海」

千葉自然学校は、持続可能な開発目標(SDGs)に取り組みんでいます。



千葉県立大房岬自然公園

皆さんは「海遊び」というとどんなイメージを持っていますか？海水浴やダイビング、釣りなどを思い浮かべる方が多いかもしれませんが、砂浜にも魅力は詰まっています。

砂浜には様々な物が漂着します。例えば貝殻やシーグラス（ガラスの欠片が波力で削られた物）、流木などよく見られるものや、珍しい物だと動物の骨、またプラスチックゴミなど自然物人工物問わず様々なものが流れ着きます。そんな漂着物を拾うことを「ビーチコーミング」と言います。ただ拾うだけではなく、人工物を拾うと、例えば海外からのゴミからは国の文化の違いを発見出来たり、陶器やビン、漁具などからは、どこから来たのかなど思いをはせることができます。貝殻など生きものの痕跡からは、周辺の生態系を浜辺で知ることができます。

上の写真は令和5年5月に大房岬に漂着したミンククジラの骨格です。この個体はメスの推定10歳（人間でいうと20歳くらい）。本来ならばあと50年程海を旅するはずだった彼女はどのようにして漂着してしまったのか…。この漂着が周辺環境にどんな影響を与えるのかなど関心を持つきっかけにもなります。

環境問題、生物保全、世界との繋がりなど様々な考えがあるかと思いますが、ビーチコーミングの一番の魅力は「宝探し」だと思います。漂着物とは一期一会。毎日同じ浜を歩いてても、新しい出会いが待っています。

春は、いわゆる「海遊び」にはまだ海が冷たいですが、春の陽気を感じながら、浜辺で自分のお気に入りの「宝物」を見つけ、様々な繋がりを感じてみてください。



大房岬はビーチコーミングの穴場スポット！タカラガイやイルカの耳骨など珍しいものも打ちあがる時があります。ぜひビーチコーミングをしに大房岬へ！



文：清水 旭（くま）

千葉県立大房岬自然公園 職員

# 事業現場レポート

大房  
岬

## 12/14 夜磯探検



大房岬の夜の海で磯の生き物探しを行いました。冬は生き物を観察しやすい最干潮が夜になります。「昼間の海とどう違うんだろう？」そんなワクワクを胸に、しっかり厚着をして、さらに濡れないよう胴長を着て夜の海へと繰り出しました。

浜辺につくと早速「ハリセンボン」というトゲのある魚がお出迎え！トゲを触ってみたり、スタッフからの生態の話にみなさん興味津々でした。

他にも生きている姿が珍しい「タカラガイ」や夜行性の「トラウソボ」など、日中ではなかなかお目にかかれない磯の生物に参加者もスタッフも大興奮！昼とは違う夜の海の楽しさを堪能する事ができました。

岩をひっくり返してみると…  
タカラガイや、様々な生物を発見！



君津  
亀山

## 2/1 冬の野遊びフェスタ in きみかめ



「ちばの体験活動を充実させること」を目的に、「ちばから体験の風をおこそう実行委員会」が主催となり、イベントを実施しました。きみかめを含めた5つの県立の青少年自然の家、県教育庁生涯学習課、日本ボーイスカウト千葉県連盟、君津市生涯学習文化課の8つの団体が中心となって、企画・運営を行いました。

ツリーイング体験や、森のガイドハイク、モンキーブリッジ、ひのきのスプーンづくりなど、千葉県を中心に活動されている団体の皆様にご協力いただき、会場は大盛り上がり！

当日は約700名の方にお越しいただき、より多くの方に「体験の場」を提供できたのではないかと考えています。

今後もこの繋がりを大事にして、地域の皆さんが楽しめるようなイベントを実施していきます。



チーバくんも遊びに  
来てくれました♪

食堂

## 今後の食堂～地域食材を活かしたメニュー作り～

株式会社体験と健康では南房総市大房岬自然の家、千葉県立君津亀山青少年自然の家の食堂を運営しています。次年度を迎えるにあたり、メニューの改定などについて検討していますが、どうしても原油高、お米をはじめとする物価の上昇のあおりを受けているのが現状です。なるべく値上げをしない方法で利用者の方に美味しく、健康的な食事を提供出来るよう頑張っていきます。

また各食堂では地域で採れたイノシシ、シカといった「ジビエ」を使ったメニューを提供しています。その他野菜やお米など地域の食材を使用したメニューを用意していますので、ぜひ食堂で召し上がってみてください。



大房岬自然の家では  
夕食の一部にイノシシ肉を  
使用しています。

文:松田 光央(株式会社体験と健康代表取締役  
兼 南房総市大房岬自然の家食堂 料理長)

# 自然学校×ネットワーク会員校

## 開催！里海博 2025



NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団  
竹内 聖一さん

館山市沖ノ島を中心に、自然体験プログラムや環境を守る活動を行っている NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団（以下、たてやま・海辺の鑑定団）。設立20周年を迎えられましたが、ますます精力的に活動を展開されています。

そんなたてやま・海辺の鑑定団が中心となり、2月9日に今年で第6回目の開催となる「里海博2025」が開催されました。どんなイベントだったのか、たてやま・海辺の鑑定団理事長の竹内さんから話を伺いました。

「里海博は、2017年から開催、地域の自然環境を未来に繋げるための活動の一つとして、子供から大人まで楽しく学べるイベントです。今年は実践者の声として、高知の柏島、NPO 法人黒潮実感センターの神田理事長、(株)自然教育研究センターの海上さんを迎え、地元中学生から高校生も登壇、さらには、子供たちも楽しめる体験コーナーなども行い、約270人（オンライン約170件）の参加者が集い、自然環境の未来を楽しみながら語り合うことが出来ました。今年は当団体の設立20周年の節目でもあり、これからの為に繋がる活動になったと思っています。」



里海博 座談会が終わり登壇者の皆様と。

たてやま・海辺の鑑定団の活動は、私達千葉自然学校のスタッフも学ぶところがたくさんあります。活動を行っている沖ノ島も、これから暖かくなってくると自然体験、レジャー、観光客と多くの方が訪れる時期になってきます。皆さんもたてやま・海辺の鑑定団のイベント等、ぜひご参加ください。

※HP や Facebook ものぞいてみてください。

取材:山口亮介(こめ)

# 自然学校×コーディネーター事業

～千葉県農林水産部農地・農村振興課～

## 中山間ふるさと活性化チャレンジ事業

県内農業関係高校生等を中心に対象とする本事業も今年度で9年目を迎え、中山間地域の豊かな自然環境、農業に取り組む地域住民の皆さんを紹介して来ました。

スタディツアーでは、鴨川市の大山千枚田や館山市のオンザファームといった農業の現場に訪問し、農業の話や体験をさせていただきました。農村ステイでは勝浦市や富津市などの農家さんの家に泊まりながら農業の方の暮らしを体験。また学校独自でも地元の大豆を育てその大豆を地域の学校給食に提供したり、温暖な南房総の気候を活かしたイタリア野菜の栽培などの企画実践を行い、学校現場にも本事業が認知されてきました。

高校生は農業者のお話を真剣に聞き、農作業も大変ながら楽しそうに体験していました。中には活動にレポートする生徒も増えて来ました。継続して事業に取り組むことで、住民とのコミュニケーションも高まり、より一層地域課題に真摯に向き合うようになってきています。



文：小松 敬（ボクサー）  
千葉自然学校 事務局長  
ヤックス自然学校 ディレクター

今年度新たな取り組みとして公式 LINE を開設しました。高校を卒業して社会人や大学生になっても中山間地域と繋がりを持ってもらおうという想いで立ち上げ、現在までに約80名の登録があります。興味関心のある方は、是非、ご登録をお願いします。

私たちを取り巻く地球環境の変化と共に温暖高温化、自然災害、人手不足、担い手不足と、中山間地域では多くの課題を抱えています。今後も中山間地域の魅力、農業の重要性を伝え続けていくとともに、課題解決の一助になれるよう努めていきます。



農村ステイで行った土壌改良のために竹炭づくり。野菜を育てるだけでなく、土づくりも農業の大切な仕事だと学びました。

# 不易流行

不易流行…いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものを取り入れていくこと。また、新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること。



文：久保田 康雄  
千葉自然学校 理事長

春になり、暖かくなってくると体を動かしたくなりませんか？今回は、山歩きについてお話したいと思います。日本にはたくさんの山があり、国土の70%が山岳地帯であると言われています。北アルプス連峰などの山々は有名ですが、私たちが暮らしている地域、特に千葉自然学校の活動する房総半島には300m級の低山が点在しています。

山歩きの魅力はたくさんありますが、何ととっても景観のすばらしさでしょう。周囲にさえぎるものがない山頂からの景色、特に千葉は山頂から東京湾や太平洋を見ることが出来る山も多いので眺望は最高です。苦労して登り山頂に着き、景色をみた瞬間の達成感や感動には格別なものがあります。また、山では期せずしてシカやサル、リスなどの野生動物に出会ったり、可憐な植物を見かけたりすることもあり、山歩きの楽しみの一つでもあります。

千葉の低山は、短いコースで登りやすいこともあり、シニアの方々にも大人気です。健康の維持や体力の増進のためにも山歩きは最適な活動だと思いますので是非、週末や休暇を利用して、山に出かけてみてください。

しかし、山には危険がたくさんあることも忘れてなりません。天候の急変や道迷いや滑落・落石によるケガなど、気を付けなければならないことがあります。

まずは、山に行く前に天気予報を調べましょう。天気が悪くなるようなら、避難場所のチェックや雨具・防寒具などの準備も忘れないようにしたいものです。

また、道迷いを避けるためには、現在地の把握が大切です。今では、現在地や目的地を把握できるようなスマホのアプリがありますが、リアルな地図も忘れないようご用意ください。道迷いで重要なことは、迷ったと思ったら、今来た道を引き返すのが一番です。安全に配慮しながら山の魅力を存分に味わってください。



伊予ヶ岳山頂より。富山と東京湾を眺める事が出来ます。

## ご寄付のお願い～古民家ろくすけの維持管理に向けて～

築200年をむかえた古民家「ろくすけ」。今年の春には皆さまからの寄付を活用して母屋屋根一部の茅替えと、損傷が激しかった長屋門の解体を行いました。今年も子ども達のホームステイや、ご家族でのご利用等、ろくすけににぎやかな声が溢れることでしょう。ぜひ新しいろくすけを楽しんでもらえたら幸いです。引き続き皆さまからのご支援をお待ちしています。(一口 3,000 円)

▼振込先(郵便局/払込取扱票を使用)  
振替口座 00170-5-259431  
加入者名 特定非営利活動法人 千葉自然学校  
※払込取扱票に以下のご記入をお願いいたします。  
【住所氏名欄】ご住所、お名前、電話番号  
【通信欄】「寄付」、領収書のご希望有無

▼振込先(銀行)  
千葉銀行 千葉駅前支店 普通 3740275  
特定非営利活動法人 千葉自然学校 理事長 久保田 康雄  
※お手数ですが、ご住所・お名前・電話番号・領収書のご希望有無を千葉事務所(下記)へお知らせください。



NPO 法人千葉自然学校

【指定管理施設】

- 千葉県立君津亀山青少年自然の家
- 南房総市大房岬自然の家
- 千葉県立大房岬自然公園

【管理施設】

- 古民家ろくすけ



千葉県内における自然体験活動団体をつなぐネットワーク型の自然学校として、平成15年より活動を行っています。自然体験を通して、千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指しています。

また、ネットワーク会員との連携を強化し、県内全域で幅広い世代を対象とした自然体験活動を実施しています。